



目次

P1 再開館！ 新型コロナウイルス対策万全に
P2 団体向けプログラム、写真展開催など
P2 リモート講演のご案内
P3 資料整理の取り組み

P3 研究から『青い芽』の中学生が問う「隔離」
P4 資料館の現場から その⑭ 設備管理について
P4 お知らせ／利用案内

再開館！ 新型コロナウイルス対策万全に

当資料館は、2月29日より、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、一時閉館いたしました。緊急事態宣言が解除されたことに伴い、感染防止対策を施したうえで、6月23日より一部サービスに限り再開館いたしました。

現在、通常通り火曜日から日曜日まで開館しておりますが（月曜日が祝日の際は開館、祝日翌日の火曜日は休館）、事前予約制ならびに定員制とさせていただきます。

<開館時間>

●午前の部：10時～11時30分 定員：10名

●午後の部：13時30分～15時 定員：10名

これまで頻繁に行っていたさまざまなイベントも、「三密」を避けるためにオンラインでの開催とし、常設展示室・企画展示室の見学と、図書室の本の貸し出し・返却にしばらく、ご利用いただいております。

加えて、館内の消毒を徹底するにあたり、清掃担当者を増員して対応しており、お客様のご来館前と後に、手すり、床、トイレ等に至るまで徹底して行っております。

入館される際は、検温、手指のアルコール消毒をお客様には行っていただいております。また、入館時ご記入いただいている来館者票記載時においては、えんぴつを共有することはやめ、その都度えんぴつはお持ち帰りいただいております。さらに、証言映像コーナーのヘッドホンも、飛行機の機内で配布されているような、使い捨てのイヤホンへ切り替えました。

ご来館いただいたお客様からは、「館内がとてもきれいで清潔」「感染対策、しっかりしていますね」というお言葉をいただいております。

ただ、90分という限られた時間ですべての展示をご見学いただくことは、一部のお客様におかれましては難しい様子で、退館時間となりお戻りになられていないお客様を探しにいきますと、証言映像を熱心にご覧になられていたり、展示見学も最後までたどり着けず、「もう時間ですか」「見学時間が90分では少し短い」というご意見をいただいております。大変申し訳なく思っておりますが、清掃・消毒作業を行う都合上、引き続き皆さまのご理解とご協力をいただければ幸いです。

来館予約は、以下公式サイトよりインターネットを経由して受け付けております。お電話でも受け付けておりますので、皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

●www.hansen-dis.jp ●電話：042-396-2909

(芳川龍郎)



団体向けプログラム、 写真展開催など



従来、事業課では団体来館者の展示見学前のガイダンス等の対応を行ってきましたが、6月の再開後は午前10人、午後10人の定員制を実施しているため、10人を超える団体での見学がむずかしくなっています。

そこで団体の皆さま向けに、リモート（Zoomなどを利用した遠隔からの参加）による展示解説等を開始しました。とりわけ、団体来館者の大半を占める学校での見学への対応として、学芸員がリモートで展示室を案内し、ライブ中継で直接質問にも答える方式が好評です。学校だけでなく、一般の団体のお客さまにも対応していますので、ぜひ事業部事業課までお問い合わせください。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催が延期されていた、石井正則写真展「13（サーティーン）～ハンセン病療養所の現在を撮る」の会期が、9月19日（土）～11月23日（月、祝）に決定しました。

俳優の石井正則さんは、全国の国立のハンセン病療養所13園をすべて訪ね、8×10（エイトバイテン）という大判カメラで撮影をつづけてこられました。今回展示する27点の作品は、すべて石井さんによる手焼きのプリントです。

会期前から多くの方の注目を集めていた写真展ですので、連日、予約のお客様が詰めかけています。「写真展をきっかけとして常設展示などをご覧いただき、ハンセン病問題への関心を深めてもらえたらうれしい」と石井さんはおっしゃっています。

会期中には、石井さんによるリモートのトークイベントも企画されています。詳細は資料館のHPをご覧ください。
(木村哲也)

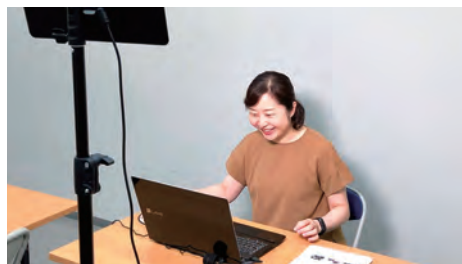
リモート講演のご案内

コロナ禍の影響により、当館が取り組んできた従来の普及啓発の方法は見直しを迫られ、新たな状況に適合的な方法が試行錯誤をとまないうちながら模索されています。その方向性は「オンライン」や「リモート」といった言葉に集約されますが、これまで出張講演や館内でのイベント等を担当してきた社会啓発課にも同じことが求められています。

出張講演は、昨年度に館全体で外部への発信力強化に取り組んだこともあり、今年度の前半から多くのご依頼をいただいております。しかし、コロナ禍の影響でそのほとんどが中止、あるいは延期となりました。そこで始めたのがリモートによる講演です。リモート講演は、①オンラインでリアルタイムに実施するもの、②あらかじめ講演を録画した動画をご覧いただくもの、に大別できます。①はさらに、IT環境を含めた依頼者側の条件により実施方法が異なります。web会議アプリを利用し当館からオンラインで発信するパターン、指定の施設に向き施設内の回線で聴講者に発信するパターンなどがあります。リアルタイムの場合は質疑応答がやりやすいなどのメリットがありますが、通信が途切れてしまうリスクもあります。小中学校からのご依頼の場合は、録画か校内の回線で発信する形が中心です。

一方で、10月以降はコロナ禍鎮静化を見込んでの予約が増えています。ご依頼をうかがうと、対面での実施をご希望されるケースがかなりあります。密を避けるために全校生徒を2グループにわけて、それぞれ講演を行ってほしいとのご依頼もあります。当館としては、コロナ禍のなかでも可能な限り出張講演のご依頼に応じていきたいと考えております。まずはお気軽にご相談ください。講演料は無料です。

(大高俊一郎)



資料整理の取り組み



収蔵庫で資料の登録を進めています。

「資料館だより」では、これまで図書室を含む館蔵資料をご紹介してきましたが、今回は資料整理の取り組みについてご紹介いたします。

当館には全国の療養所入所者自治会や個人をはじめ、関係者の皆さまからご寄贈いただいた多様な資料が収蔵されています。資料の一部は常設展示や企画展、ギャラリー展で皆さまにご覧いただいたり、ミュージアムトークなどの場で紹介したりしていますが、それ以外にも多数が収蔵庫に保管されています。

資料は、ハンセン病問題に関する正しい知識の普及啓発に必要不可欠であり、これらの保存管理は資料館の重要な役割の一つです。資料館ではその整理を効果的かつ効率的に行うために、昨年度、館内で資料整理のプロジェクトチームを編成しました。

プロジェクトチームでは収蔵資料を、大きく、療養所で使われていた生活用具などの実物資料約5500点、絵画や陶芸作品などの作品約4000点、文書資料約7000点、動画・静止画・音声約6万5000点、などの4種に分類し、それぞれに担当者を配置しました。現在は来歴を始めとする情報をデータベースに登録していく作業が進められています。

膨大な点数の動画・静止画・音声を除く、実物資料、作品、文書資料の3種の資料は、本年度中にデータベース登録が見込まれています。公開が可能な資料については、実物資料と作品は展示などで随時公開を、文書資料はホームページ上での公開も検討しています。今後も、さまざまな資料を通してのハンセン病問題の普及啓発にご期待ください。

(星野奈央)

研究から

『青い芽』の中学生が問う「隔離」

7月よりオンラインで再開したミュージアムトーク、新装第2回は『『青い芽』の中学生』をお届けしました。『青い芽』とは、1958年に創刊された東村山中学校全生分教室(1953年認可)の卒業文集です。

患者だったこどもについては従来、隔離下での、発達に関する権利の侵害や派遣教師らによる差別の問題などが指摘されてきました。報告ではこれらをふまえ、化学療法の進展と高度経済成長を背景に社会復帰者が増加した多磨全生園で、中学生が何を問題としたかを初期の作品から読み解きました。

療養所の外でも中学卒業と同時に就職するライフコースが中心だった時代、こどもたちの将来像は退園後の就職か進学、あるいは退園そのものに結ばれました。そこには強い不安と同時に隔離への抵抗があり、邑久高校新良田教室への進学を拒否することもありました。

一方園内では、障害や高齢化のため退園を望めない者、らい予防法下で後ろ盾のない社会復帰に挑む青年、軽症でも退園できない人々、が混在する「転換期」に入っていました。『青い芽』には、噂話を好み互いに監視し合うおとなへの反発や、自分の世界を守ろうとする様子が綴られています。ある少女はそれを「灰色にけむっている」と表現し、ある少年はお金も生活物資も与えられるなかで「人間がイカレちゃう」と指摘します。将来の自画像を園外に描いたこどもたちは、翻って園内の社会を見すえ、隔離がもたらす悲惨さを衝いたのです。

貧しさや差別によって疎外されながらも、批判的な身構えをもって病気と隔離とに対峙したこどもたち。その姿からハンセン病問題を問い直す試みは、始まったばかりです。

(西浦直子)



『青い芽』第5号表紙
〈版画は中学生の作品〉
(東村山第二中学校全生分教室、1962年3月)

資料館の現場から その⑭ 設備管理について

今回は、館内の設備管理の業務について紹介します。

設備管理の業務は、ふだん来館されるお客様の目に直接ふれることの少ない裏方仕事を中心です。

例えば、各種設備の温度・湿度・風量・CO₂等の調整、数値データの記録、メンテナンス、改修等を行い、お客様を含め内勤スタッフの方々への最適な館内環境を整える業務担当をさせていただいております。

そのためには、温度、湿度のバランスを考慮し、中央監視システムによる自動制御と、季節ごとの外気環境に応じて適宜体感し手動で行う個別制御の二本立てで設備管理を行っております。館内が暑い、寒いと感じられましたら確認して調整を行いますので、遠慮なくお近くのスタッフまでお声掛けください。

また、地球環境を考慮した設備の実現も大きな柱のひとつです。東京都の排出ガス（CO₂）削減計画に参加し、率先して電力量削減等に取り組んでおります。資料館の現存の構造・造形を変更すること無しに、省エネを実現できるような改修を心掛けております。さらに、資料館増築棟では雨水を地下水槽に貯めて浄化殺菌し、トイレ使用時の流水として利用するなどして、節水を心掛けております。

災害時への備えも万全です。他部署と連携し、スタッフに対して定期的に防災訓練、災害時緊急対応訓練、発電機、除雪機等の指導、説明を行っております。

お客様に安心してご来館いただけるよう、引き続き設備管理の業務に取り組んでまいります。

(鈴木全伸)



雨水をトイレの流水に再利用する装置

お知らせ

一時休止していたミュージアムトークを、7月よりZoomウェビナーで再開しました。年内の予定は下記のとおりです。

10月24日(土) 山本暁雨の人と書 (金貴粉)

11月21日(土) ゲートボール熱中時代

(大高俊一郎)

12月19日(土) 多磨全生園の隠された史跡をたどる

(橋本彩香)

各回14:00~15:30、事前申し込み制、定員100人です(予約はHPで受付)。

7月から9月までに実施したトークは、どの回も開催前に満席になり、事後のアンケートでもご好評をいただいています。詳しくは当館公式Webサイト、公式Twitter、Facebookの記事をご覧ください!



当館HP

利用案内

新型コロナウイルス感染拡大防止をはかるため、入館制限や予約制の導入などを行っています。詳しくは当館公式ホームページをご覧ください。

■開館時間 10:00~11:30
13:30~15:00

■休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)
年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■入館 無料(要事前予約)

■交通

- ・西武池袋線 清瀬駅南口より
西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分
([ハンセン病資料館]下車)
- ・西武新宿線 久米川駅北口より
西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分
([ハンセン病資料館]下車)
- ・JR武蔵野線 新秋津駅より
西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分
([全生園前]下車、徒歩10分)
または徒歩約20分

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13
TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981
URL <http://www.hansen-dis.jp>